

是彼會員

白寿を迎えた会員 寺西修司さんとの交流

村田嘉明（会員）

私が善隣に入会した2009年頃は満州建国大学や善隣協会専門学校（善隣高等商業学校、善隣外事専門学校）出身の卒業生が会員に多数おり満州からの引揚者を中心に協会運営されていた。協会で最後に発行された「会員名簿」（平成22年度版）の頁をめくると、①氏名、②郵便番号、③勤務先、④主な職歴、⑤海外職歴・居住歴（旧満州）の欄があり「在長春」「在大連」など戦前の旧満州の都市名が末尾に記載されている。ちなみに旧満州国で生まれた私は「在長春」と記載されている。

商は敗戦により廃校になったため、善隣事務局に同窓会連絡処（三水会）を置き運営していたが、同窓生の高齢化により消滅した。寺西さんの母校「善隣外事専門学校」は1935年2月「善隣協会専門学校」修業年限3年、実業専門学校として淀橋区西大久保（陸軍戸山ヶ原演習場）に開校した。母体の財団法人善隣協会は「内蒙古に於ける文化工作（医療・教育援助）を担った外地（中国・蒙古など）に活躍する人材を養成するため設立された。当初は善隣高等商業学校で運営されていたが日中戦争の激化で「善隣外事専門学校」に校名変更した。以上「善隣」と学校名称の前に表記されているが（一社）国際善隣協会と全く関係は

ない。つまり「善隣」の表記は戦前から使用していた財団法人善隣協会が初めで、善隣高商、善隣外事専門学校に続く。善隣外事専門学校は昭和20年4月の山手空襲で全校舎が消失し、神奈川県川崎市溝ノ口の陸軍東部62部隊、兵舎跡を整備し終戦直前から戦後、1950年まで開校していた。戦前まで学校を経営していた興亜院・大東亜省が消滅したため学生・教員は旧制明治



善隣外事専門学校2階建校舎全景



寺西修司さんの20歳ごろ

学院専門部（現・明治学院大学）に移籍した。寺西さんが在学していた当時の校長大嶋豊氏は、戦後、公職追放され後に東洋大学理事長・学長を勤めた。大嶋豊さんは寺西さんの旧制中学の先輩。終戦後、馬絹台校舎があった場所は川崎市高津区梶ヶ谷1丁目の虎ノ門病院分院付近。私が入会した2009年頃は満州建国大学や善隣高商の会員と交流があった。所属する常任委員会の東北委員会でも善隣外事専門学校出身の寺西修司さんと交流してきた。寺西さんは1946年5月に専門学校へ入学し1949年3月に卒業した。寺西さんは、2025年9月12日に「新橋亭」で開催された善隣長寿祝賀会で白寿として招待された。当日、白寿は1人、喜寿は3人、米寿は4人だった。



後列右から4人目が寺西さん

私と会員（東北委員会委員）の故・村瀬廣さんは委員会を通じて寺西さんから出身地の四国から戦争直後に上京し善隣外事専門学校入学、卒業、就職、結婚、会社経営などの苦労話、「昭和21年5月、故郷の高松から船を乗り換え、大量の米を入れたリュックサックを背負って、17時間余りの列車の旅で食糧を運んだ。当時は超食糧難



前列中央が神保さん、1948年10月

のため、米が都会に出るときの必要物資であった」とのエピソードを聞いた。昭和2年3月に高松市内で生まれ高松一中卒業後、健康状態が悪く軍隊入隊ができず昭和20年8月に終戦となった。終戦後の超食糧難の中、上京し全寮制の専門学校、善隣外事専門学校英語科に21年5月に入学し24年3月に卒業した。卒業後、都内の建設資材会社に入社した。昭和10年善隣協会、11年財団法人化、10年善隣専門学校開校、14年善隣高等商業学校、19年戦況悪化で善隣外事専門学校に校名変更。25年に廃校となり在校生および教員は旧制

明治学院専門部に引き継がれた。設立時は興亜院・大東亜省から経費支給され授業料は官立専門学校と同レベルだった。

寺西さんは100年近くの人生の中で思い出深いのは、善隣外事専門学校で学んだ3年間の学友・神保達氏（善隣会員：故人）氏との交友だった。神保さんと100日間「世界一周クルーズ」での写真（南米イースター島、南極海ほか）を見せてもらった。



左端が神保さん、右端が寺西さん（川崎市にて）

人生100年というが、寺西さんが1年前まで杖もつかずJRと私鉄線を乗り継ぎ、善隣の東北委員会に出席されている姿に高齢者の私（81歳）も元気をもらった。寺西さんの現在の心境は電話したり、会う友人が「居なくなってしまった」とのこと。私は寺西さんとスマホ「ショートメール」で通信している。

（出典）寺西さん所蔵の写真、昭和館デジタルアーカイブス、明治学院デジタ



左は神保さん、2009年3月2日（南米イースター島にて）

ルアーカイブス、ウィキペディア「善隣協会専門学校（旧制）」。（注）本文中、西暦・和暦を併用した。



神保さん（南極海にて）



中央が寺西さん、2009年2月5日（南アフリカ喜望峰にて）